

本発表の目的は、フランス語学習者にとって聞き取りやすいフランス語の特徴を分析し、フランス語音声の聞き取りやすさを予測するモデルを提案することである。さらに、予測モデルの応用可能性を検討し、フランス語学習者のリスニング教育の向上に貢献することを目指す。

聞き取りやすさとは、特定のコミュニケーション状況において、特定の聞き手がその聞き手固有の経験をもとに、ある口頭談話を理解する際に感じる容易さや困難さのことである。語彙や構文、韻律に代表される談話の特徴が、聞き取りやすさに影響を及ぼす (Ozawa et al., 2024)。本発表では、聞き取りやすさを CEFR レベルで表す。

本発表で使用するデータは、25 冊のフランス語の教科書付属の音声とそのスクリプトである。それらのデータは、会話とモノログという発話スタイルによって分類される。音声とスクリプトから得られる特徴（一分あたりの音節数、一文あたりの文字数など）と、対応する教科書の CEFR レベルの相関分析を行い、聞き取りやすいフランス語の特徴を明らかにする。加えて、CEFR レベルが未知であるフランス語音声の難度予測を行う。

本発表では、予測モデルの応用可能性を、モデルの自動化という観点から主に考察する。したがって、本発表における聞き取りやすさ予測モデルの分析は、大きく二つに分けられる。一つは、手動で調整を加えた第一モデルの分析であり、もう一つは、自動で構築された第二モデルの分析である。両結果を比較することで、聞き取りやすさの自動予測モデルの実現可能性を評価する。その予測モデルの実現は、オーセンティックな教材使用を容易にすることに繋がる。オーセンティックな談話を聞くことは学習に対するモチベーションを高め、リスニング能力向上を導くため (Stempleski, 1987; Yoshimi, 2019)、フランス語学習に役立つことが期待される。

## 参考文献

- Ozawa, M., Wilkens, R. S., Sugiyama, K., & François, T. (2024). Modéliser la facilité d'écoute en FLE : vaut-il mieux lire la transcription ou écouter le signal vocal ?. *Actes de la 31ème Conférence sur le Traitement Automatique des Langues Naturelles (TALN2024), volume 1 : articles longs et prises de position*, pp.549-566.
- Stempleski, S. (1987). Short Takes: Using Authentic Video in the English Class. *Paper presented at the 21st Annual Meeting of the International Association of Teachers of English as a Foreign Language*. Westende, Belgium: IATEFL.
- 吉見かおる. (2019). 「時事問題を取り入れたリスニング学習の効果とその展望—現代国際学部における Listening Comprehension 1/2 の実践例—」. 『名古屋外国語大学論集』, 5, pp.105-119.